

令和元年度第2回 蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議 会議概要

■日 時 令和元年11月6日（水） 午後3：45～5：15

■場 所 市役所4階 第1委員会室

■出席者（敬称略）

委 員：林 大樹、秋山 滋雄、岡本 和子、長谷川 浩司、熊手 正浩、永沢 映
鈴木 篤志、川野 和寿、左 裕美子

事務局：佐藤 慎也（総務部長）、有里 友希（総務部政策企画室長）
島田 雅也（政策企画室長補佐）、森本 悠理（政策企画室主事）

■次 第

1. 開会

2. 議題

（1）蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定について

（2）その他

3. 閉会

■内 容

【開会】

【議題】

（1）蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定について

事務局より配付資料について説明。

会 長：説明を踏まえて、今後の蕨市の総合戦略の改定について、6つの基本目標ごとに意見を伺いたい。また、6つに収まらないような分野についても意見があればお願いしたい。

【基本目標Ⅰ 安全で安心して暮らせるまち】

委 員：行政と一緒に、安全・安心・きれいなまちづくりに継続して取り組んできている。近年は身近に大きな災害が起きており、先日の台風19号では、蕨市に避難勧告が出て、19か所の避難所に1,652名が避難した。様々な方の協力で大きな被害は出なかったが、要支援者をどのように避難所に送り届

けるかが課題として残った。また、垂直方向への避難も行われたが、避難者の数は想定を超え、行政・町会・自主防災会・学校の役割分担をしっかりと行う必要性を感じた。

市内全域に設置された防犯カメラは抑止力として働き、逮捕される犯人も出ているので、今後も緻密に設置を進めてほしい。防災面では新庁舎にも期待している。

委員：地域経済の観点では、商工会議所では、中小企業に対して業務継続計画の策定を働きかけているが、市においても企業向けの基本計画を策定するなど、支援策を導入してほしい。

委員：国は、国土強靱化計画の策定を推進し、防波堤などのハード面の防災機能を高めることを目指してきたが、今回の台風ではハード面を強化しても治水がうまくいかず、武蔵小杉のように水害に見舞われる事例があった。一方で、浦和美園や越谷レイクタウンなど水害がほとんど起きずに治水が成功している事例もある。最近はコミュニティとの関係性の再構築の議論が活発であるため、今後、水害時のインフラ整備を行うにあたっては、コミュニティとの連携・役割分担について、併せて検討を行うとよいと思う。

委員：川口市は台風19号において想定を超える人数が避難したようだが、避難所のキャパシティや物資の配備状況が分からないため、市民が避難すべき程度の判断が困難であったことが要因と考えられる。自治体が地元住民に徹底した防災演習を行わないとより重大な災害時に避難所が機能しなくなる恐れがある。蕨市においては、避難所のキャパシティ、設備、避難経路などを調べて、ハザードマップに明記したほうがよいと思う。

委員：今後、蕨市の高齢化比率が高まるのは間違いない。インフラの老朽化対策、蕨駅西口再開発の進展を急ぐとともに、耐震化を優先しつつ災害対策を進めてほしい。

また、金融機関では振り込め詐欺を警察などと連携して防止しているが、件数が大変多いため、市役所としても啓発活動に一層努めていただきたい。

委員：川の氾濫が想定される時には、戸田市、川口市を含めた広域的なハザード情報が求められる。広域連携の視点を組み込む必要があるのではないかと。

会長：広域連携で想定している取り組みはあるのか。

事務局：圏域全体のハザード情報を広域的な地図に落とし込んだものはあるが、現時点で更なる取り組みは想定していない。

会長：今の指摘は重要だと思うので、広域連携についても検討してほしい。

委員：小・中学生の子供がいるので、学校が避難所になったことを知ることができた。しかし、台風が来る当日の朝に避難所開設の回覧が回っていたため、独り身の高齢者などの弱者にどこまで手を差し伸べられたのかは疑問である。

一方で、民生委員や消防団から情報を得て、避難所に避難できたという声も聞いており、地域のつながりやコミュニティ力が防災には必須になると思う。

委員：蕨市は犯罪件数が多いのに、未解決の事件があることは不安である。

【基本目標Ⅱ 豊かな個性を育み子どもたちの未来輝くまち】

委員：柱には、厚生労働省と文部科学省が管轄する施策が両方含まれている。施策を具現化する場合に担当部署が変わることになるが、その方が実施しやすいのか。

事務局：横断的な連携を取って実施するため、一体的な表現を取っている。

委員：3つ目の柱は、認知症予防や高齢者のがん検診などのセーフティネットに係る施策が中心となっているが、最近では人生100年時代、老後資金2,000万円問題など、年齢を問わず生涯働き続け、学び続けるというテーマが主力になっている。そのため、教育というテーマが青少年教育に留まっていることが気になった。

委員：保育園の待機児童問題が叫ばれているが、住み続けたいまちづくりのためには小・中学校の特色ある教育づくりも大事になる。戸田市では、小・中学生に英語検定を受けさせており、財政が豊かなのだと思う。こうした取り組みも必要ではないか。
また、発達障害で授業中座れない児童がいるという話を聞き、現場の教職員が不足しているように感じている。スクール支援員として、小学校で仕事をしたことがあるが、教育センターにおいては、更に教育の向上に取り組んでもらいたい。

委員：子育て世代の定住のためには病児保育や待機児童対策などの施策も必要となる。最新の状況について教えてほしい。

事務局：熱が出ると子供を保育園に預けられなくなるので、代わりに預かるための病児保育が必要となる。今年度から、民間の力を借りて、病児保育を実施する施設を開設した。待機児童対策としては、これまで、民間保育園を順次整備しているが、作った数に対して必要とする人の数も増えている。

【基本目標Ⅲ みんなにあたたかく健康に生活できるまち】

委員：長寿化により、寝たきりの老人が増えることが医療費増加の一因となっており、健康寿命を延ばす必要がある。市立病院の職員と話すと、報道された公立病院の再編の件については、心外であるという声を聞いている。

委員：先ほどの意見を再度述べるが、3つ目の柱について、地域包括ケアシステム以外はセーフティネットとなる取り組みであり、リカレント的な生涯教育など生涯働けるクリエイティブな人材を育成する施策も加味すべきである。シ

ルバー人材センターだけでなく働ける場を作ることやフレイル（健常な状態と要介護状態の間）にならないよう、地域の中で活躍できる環境を整えることも重要である。

委員：蕨市立病院が施策の核となると思うが、現状のままでよいのか。

事務局：先日、蕨市立病院を含む全国424の公立病院について「再編統合について特に議論が必要」とする勧告が国から行われた。背景には、急性期病院が多く、回復期病院が足りないことによる病床の調整も含んでいるにもかかわらず、「再編統合」という言葉が一人歩きしてしまったようである。市立病院も、一定の基準は満たしているが周辺に大きな病院があるため、地域としては病院が充足している整理となってしまう側面もあるようだ。厚生労働省の勧告に強制力はなく、何らか協議はあるかもしれないが、蕨市の方針がすぐ変わることはないと聞いている。

委員：金融機関と連携した健康増進の施策はぜひ続けてほしい。

委員：総合病院については、医師会（蕨・戸田市医師会など）との連携など、広域の医療体制の構築をするなかで、必要病床数、診療科の検討をすべきであると思う。総合病院経営は財政に与える負荷が大きく、国（厚生労働省）の政策を注意しながら、考えていく必要がある。

委員：体育協会の副会長を務めており、発足90周年を迎えて、生涯スポーツの推進に取り組んでいる。いきいき百歳体操を行う団体数も着実に増えており、健康寿命を伸ばすために行政と一緒に歩んでいきたい。

委員：従業員が健康に活動できれば企業の業績が上がるという健康経営の考えに基づき、国はホワイト企業の認定制度を設けているが、更に市からの表彰やインセンティブがあると企業イメージの向上につながると思う。

【基本目標Ⅳ にぎわいと活力、市民文化と歴史がとけあう元気なまち】

委員：蕨のまちづくりの方向性を打ち出すためには戦略が必要となる。日本で年間15%以上伸びている産業は外国人向けの観光と農業であり、産業構造が大きく変わっている。

蕨は、従来、中山道や蕨駅西口の商店街を中心とした生産・消費で経済が循環しており、大企業は少なかった。その流れを汲む場合は、空き店舗で創業して、商店街を中心にまち全体で活性化を目指す方向性がある。一方で、観光目的に情報を発信することで、まち全体で多くの人がお金を落とす文化を生み出す方向性も考えられる。市として方針を立てたうえで、ブランドづくり、中心市街地活性化などのにぎわい創出を戦略的に行う必要がある。

委員：同意見である。シティプロモーションのイメージがわからないので、どちらの方向性で、にぎわいと活力の向上を目指すのか具体的に考えてほしい。

- 委員：蕨駅西口再開発事業を進めてほしいと思う。
- 委員：町会長連絡協議会として、双子織や河鍋暁斎といった蕨の地域資源を知ってもらうよう周知のお手伝いができると思う。
- 委員：中心市街地活性化基本計画の5年間の認定期間が終わるため、再度、行政計画の認定を目指すのか、国の補助メニューの活用や蕨駅西口再開発も含めて次の方向性を打ち出してほしい。
- 委員：駅前通りの住宅化が進み、子どもの頃の駅前通りのにぎわいを取り戻すのは難しい。しかし、現在の蕨も、宿場まつり、機まつり、市民音楽祭、肉フェスなどの動員数が多い祭りが行われており、そういう側面から見ると、決して市全体のにぎわいが低下しているとは思わない。

【基本目標Ⅴ 快適で過ごしやすく環境にやさしいまち】

- 委員：蕨市の下水道の耐震化はまだまだ途上である。災害に強いまちづくりには欠かせないため、より一層取り組みを進めてもらいたい。
- 会長：水道・下水道は広域でなく、市単独の事業か。
- 事務局：単独事業である。
- 会長：市が責任を持って取り組む必要があるといえる。
- 委員：住まいについては、空き家問題が重要となるので、様々な対策事例を参考にしてほしい。例えば、文京区は、空き家の解体費用を地権者に補助したうえで、区が10年間の定期借地権を設定して公園などの公益目的で使用する取り組みを行っている。また、SDGs、ユニバーサルデザイン、子育てを支援するバリアフリーなどの視点も加味すべきだと思う。

【基本目標Ⅵ 一人一人の心でつなぐ笑顔あふれるまち】

- 委員：新規口座を開設する外国人が多いが、銀行側も相当なコストと手間やリスクを負っている。本来、市で行うことではないかもしれないが、口座売買で犯罪に繋がらないような対策を検討してほしい。
- 委員：外国人に対する地域参加や支援とは、どのレベルなのか。現在も市民活動推進室で行政書士相談をやっていると思うが、多言語体制をとってさらに手厚く支援するのか。現状は、「単によいことが書いている」で終わってしまうので、支援のレベルが明確にわかるよう工夫してもらいたい。
- 委員：外国人の地域参加が増えているが、言葉が通じなくて1対1で対応しなければいけないことがあるので支援の検討をお願いしたい。
- 委員：町会としても、転入者において、外国人の割合が高いことは感じている。転入してくる外国人に蕨市民としての自覚を持ってもらうために知恵を絞る必要がある。

委員：コミュニティバスの最終便の時刻が午後5時50分となっているが、みんなで協働して活動するために、時間を遅らせてほしい。

委員：蕨市は人口比率だと市民活動は活発であるが、国は、第2期総合戦略の策定方針において、各種団体やNPOの市民活動を重視しつつ、「地域づくりを担う組織や企業と連携」という言葉を加えている。昨今の災害において町会、自治会の再構築も叫ばれているなか、企業のCSR的な地域貢献を言葉として加えるのはあり得る。また、人生100年の時代を迎えようとしているため、アクティブシニアなどの健康増進についても、3つ目の柱かこの位置に入れるとよいと思う。

協働事業提案制度について、新しい提案は少ない傾向があるため、指定テーマを募集する際に、起爆剤となる事業の具体化を計画的にできるとよい。

【その他】

事務局：次回、第3回の12月25日（水）が最終回となる。今回頂いた意見を基に総合戦略改定に向けた意見書をまとめて提示するので、不足している内容、さらに追加したい内容があれば、発言してもらい、意見書を完成したいと考えている。皆さまの意見を整理する中で、発言の主旨の確認のため、個別に連絡するかもしれないが、その場合はよろしくお願ひしたい。

委員：午後1時30分から開催される前の会議にも出席しているので、次回は午後3時30分からの開催を希望する。

事務局：検討する。

会長：意見書のたたき台が事前に送られてくるため、今回よりは意見交換はスムーズに進むと思うので、時間についても前向きに検討してもらいたい。

以上